

平成 27 年度 第 9 回豊能町教育委員会会議（12 月定例会）会議録

日 時：平成 27 年 12 月 24 日（木）午前 9 時 30 分～午前 10 時 59 分

場 所：豊能町役場（2 階）大会議室

出席者：教育長 石塚 謙二

教育委員 岸本 恵子（教育長職務代理）

教育委員 太田 佳子

教育委員 川村 新

教育委員 宮崎 純光

事務局：教育総務課長 塩山 博之

生涯学習課長 小竹 温彦

教育支援課子ども支援室長 川西 弥生

教育総務課課長補佐 入江 太志

教育総務課主査 萩原 哲也

教育総務課主査 久保 晃

傍聴者：2 名

会議次第

1. 議長（教育長）あいさつ

2. 議 事

・第 13 号議案 平成 27 年度豊能町要保護準要保護児童生徒の認定について

3. 報告事項

・各課、室の取組について

開会 午前 9 時 30 分

1. 議長（教育長）あいさつ

議 長：本日の出席委員は 5 名全員で過半数に達しているので、ただいまから 12 月度の定例会を開会する。会議録署名人を岸本教育長職務代理に願います。

2. 議 事

議 長：「第 13 号議案 平成 27 年度豊能町要保護準要保護児童生徒の認定について」を議題とするが、当議案は、対象世帯の所得や生活状況等の個人情報を取り扱うため、豊能町教育委員会会議規則第 5 条の規定により秘密会として審議したい。

（委員：全員異議なし）

議 長：当議案の審議を秘密会とする。  
当議案について、事務局より説明を求める。

事務局：（議案書、資料に基づき説明）（新規申請分 1 件）  
（質疑応答）

議長：質疑を終結する。

提案のあった第13号議案に賛成の方の挙手を求める。

(挙手皆無)

挙手なし全員である。よって、第13号議案は否決された。

議長：議案審議は以上である。以上で秘密会を解く。

次に、前回の教育委員会会議以降の事務局の主な動向等について報告を求める。

事務局：・平成28年度の憲法記念日の知事表彰候補者について

- ・各学校でのマラソン大会
- ・小中一貫教育等充実検討委員会のカリキュラム部会について
- ・園所保護者アンケートについて
- ・子育て応援隊「すくすく」OB会について(12月15日、希望ヶ丘集会所於、親子7組参加)
- ・「育児の日、親子ふれく愛>あそびフィールドオブゆう」の行事について(12月19日、西公民館於、大人23人、子ども31人、計54人参加)
- ・大阪成蹊大学より講師を招聘しての保護者向け研修会の開催について(12月21日、ひかり幼稚園於、約25人参加)
- ・ロビーコンサートについて(12月5日、ユーベルホール於、46人参加)
- ・フロアーカーリング大会について(12月12日、シートス於、16チーム参加)
- ・「大人の大学」について(12月12日、図書館於、30人参加)
- ・「物語の時間」(図書館開館30周年スペシャル)について(12月13日、図書館於、139人参加)
- ・「お楽しみ講座」について(子ども対象で書道とクリスマスカードづくり、12月19日、西公民館於、21人参加)
- ・「オオサカクリスマスコンサート」について(12月23日、ユーベルホール於、ほぼ満席)

議長：質問等はいかがか。

無いようなら、取組の報告で、小中一貫教育等充実検討委員会のカリキュラム部会について報告願いたい。

事務局：さる12月21日、第1回カリキュラム部会の会合があり、メンバーは、保幼小中学校の所属長及び教職員代表、学識経験者である。カリキュラム部会は、一貫教育をどのように考えていくかについて、学校関係者が進めるに当たりどういう課題があるか、話し合いができれば良いという思いで進めた。

教育環境部会からは、ハード面に関して、通学の手段、クラブのこと、建物のこと、給食のこと等でメリット、デメリットはどのようなのか等の件が出ていたので、事務局から各学校等に予め伝えていた。

今回のカリキュラム部会は、東地区グループ、西地区グループに分けて話し合いを実施した。その中で、「なぜ、今、小中一貫教育が必要なのか」、また、「中1ギャップ」等の課題について、また、義務教育9年間の区切り方に関して、例えば「5・4制」なのか、又は、「4・3・2制」なのか、今のように「6・3制」なのか等の話があった。

また、本町では、平成27年度より西地区で中学校の教員が小学校へ行き理科の授業を行う小学校専科加配事業を行っている。複数の小学校に行き中学校教員が授業を行っているの

で、小中一貫教育の中での、ただ単に9年間をなべて行うということのデメリット又は良さ等の話が出た。限られた時間ではあったが、教育環境部会では出て来なかった教員側の小中一貫教育に対する考えを聞く機会になった。

今後、第2回目のカリキュラム部会を1月18日に予定している。そこでは、教育環境部会の課題を具体的に提示し、検討を進めていく。第3回目を2月22日に予定しているが、その前に、2月1日に保護者委員会を開催し、「第1・2回のカリキュラム部会で出された意見等を保護者に報告する。

その後、カリキュラム部会と教育環境部会の意見をまとめて、3月4日に開催予定の全体会に繋げたい。

議長：教員数等、他に各種課題等もある。

委員：カリキュラム部会において、「なぜ、今、小中一貫教育が必要なのか」ということについては、どんな様子だったのか。

事務局：教員の中でも、認識の差がある。9年間の義務教育で、子どもたちが将来社会に出ていく時のためのことを心して教育していかなければならないという話が出ていた。

また、小集団なら人間関係の固着化等も言われるが、悪いとかマイナスとは限らない。高校でも本町で培われた力を発揮して、活躍しているという声もよく聞く。学校の規模ではなく、どこでどういう力を付けていくのかということが大切であるという意見もあった。また、豊能の地域にいるからこそその「ふるさと学」を大切にしていって、例えばこれを小中一貫で学び取って、「豊能の教育」ということとしてカリキュラムをどう作るかということとは、たいへん重要な要素ではないかという意見もあった。この（小中一貫教育等充実）検討委員会そのものの意義として、委員から先程あったように、「なぜ、今、小中一貫教育が必要なのか」ということについて、再確認することが大切である。教員の参画意識を高めることが大切という話も出ていた。

議長：教科によって違うが、小学校の文化と中学校の文化は違う。理科の授業を例に採ると小中学校間の「相互乗り入れ」で段差等の発見ができるのではないのか。

委員：「とよの学」は、会合ではどういう内容だったのか。

議長：吉川学、町の歴史、地勢、文化、産業、自然等々、幼稚園から中学3年生まで学ぶもの。例えば、東西の交流をしながら高山へ行く、牧で農業体験を行う等である。

委員：検討委員会で議論したことをフィードバックして、学校の中で議論していただき、また持ち寄ることが大切で、教員自らが自分たちは渦中にいるんだという認識をしていくことがこの先は重要になってくる。0～15歳の町内の子どもが成長していけるために、自分たち（教員たち）は何が良いのかを今考えているんだという認識を個々の教員の方が持っていたきたい。ただ、まだ（議論が）スタートしたばかりなので、話し合いの中で、学校によっては、「なぜ今、小中一貫教育の話なのか？」等の先生方の反発の声はなかったのか。

事務局：あった。教員たちが現状を変えていくということは、エネルギーが要るし、発想の転換も要る。その発想の転換についても、捉え方によっても違う。5年、10年、20年後のことを考えて、前向きに考えて意見を出し合うということが大切である。子どもの人数が少なくなっていくから、そのためだけのその場しのぎの解決策として小中一貫教育があるのではないということを会合の中で回を重ねるごとに委員の中からそういうことが出て来つつあ

るという状況である。色々な意見を融合し束ねながら進めていきたい。

議長：子どもの人数が少ないと指導もしやすいが、少なすぎるのも具合悪い。また、他に課題は校舎の老朽化等々もある。

委員：子どもたちに、自分たちが生まれ育った本町に自信を持ってもらい、「ふるさと学」というか、本町のことをもっと知ってもらって、本町から転出したとしても本町にいずれまた戻って来てくれるようになって欲しいと思う。

議長：一例だが、西地区の住民の方々に、この役場本庁に来たことが無い方もおられる。吉川支所で対応できるということもあるが。ともかく東西交流は重要と考える。他にはいかがか。

委員：保護者、教員へのフィードバックの重要性は同感である。また、これからの世代の住民への説明・伝える場が欲しい。タウンミーティング的なもので、各地域で誰でも参加できる会合を早い段階で実施して欲しい。決定事項でなくても、途中経過を伝える、意見を聴くのみでも良いと思う。皆で作っていく（進めていく）という感じになると思う。意見等は十人十色で賛成もあれば反対もあると思う。少人数で何かを行うとなるとかなりのエネルギーが要るが、住民の方々も参画者とし、力も得て、大勢だとエネルギーも少なく済むのでは。それと、計画がどんどん進み頼もしく思う。

委員：町のホームページについてだが、住民はほとんど見ていないのではないか。よって、タウンミーティングの開催が必要と思う。

議長：ご意見ありがとうございます。他にいかがか。

事務局：教育委員会だより（平成28年1月第4号）に小中一貫教育関係を掲載している。ご覧いただきたい。

議長：事務局員は、本日のご意見等を踏まえ頑張ってください。小中一貫教育、学校の再配置、リニューアル等々の課題もある。先日、町議会でシームレスについて、教育長の考えを問われた。保幼小中一貫教育、段差のうまく繋がった教育、ふるさと学、東西交流を部活動を含めて行う。小学校5～6年生で英語が教科となる見込みであり、町として重点としていくことも必要ではないかなどと答弁した。

議長：次回以降の教育委員会会議の日程を調整したい。

1月度の教育委員会会議については、1月26日（火）午後4時より開催予定とする。

2月度の教育委員会会議については、2月25日（木）午前9時30分より開催予定とする。

これで本日の教育委員会会議を閉会する。

閉会 午前10時59分

以上、会議の次第を記し、これを証するためここに署名する。

平成 27年 12月 24日 署名  
豊能町教育委員会教育長

石塚 謙二

会議録署名人

岸本 恵子